



【副総裁】
西村清彦
[にしむら・きよひこ]
昭和28年3月30日生
出身地 東京都



【総裁】
白川方明
[しらかわ・まさあき]
昭和24年9月27日生
出身地 福岡県

日本銀行新総裁、新副総裁就任
▼日本銀行の総裁および副総裁が交替しましたので、新しい総裁および副総裁をご紹介します。

昭和50. 3 東京大学経済学部卒業
52. 3 東京大学大学院経済学研究科修士課程卒業
56. 9 米国ブルッキングス研究所オークンリサーチフェロー
57.12 米国イェール大学Ph. D. (経済学博士)取得
58. 1 東京大学経済学部助教授
平成 6.11 東京大学経済学部教授
15.10 内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官
東京大学大学院経済学研究科教授
17. 4 日本銀行政策委員会審議委員
20. 3 日本銀行副総裁

昭和47. 3 東京大学経済学部卒業
47. 4 日本銀行入行
平成 2. 5 信用機構局信用機構課長
5. 5 企画局企画課長
6. 5 大分支店長
7.12 ニューヨーク駐在参事
8. 8 金融研究所参事
9. 2 国際局参事
9.12 審議役 (国際資本市場担当)
12. 6 審議役 (企画調査担当)
14. 7 日本銀行理事
18. 7 京都大学公共政策大学院教授
20. 3 日本銀行副総裁
20. 4 日本銀行総裁



▼日本銀行では、今年度も大学生の皆さんを主な対象に「第四回 日銀グランプリ」キャンペーンからの提言を実施します。昨年同様、小論文による予選を勝ち抜いたチームが、日本銀行本店において、日本銀行副総裁が審査員を務める審査員を前にプレゼンテーションや質疑応答を行って決勝を競います。

課題は「わが国の金融を巡る課題と処方箋」。金融や経済のグローバル化や金融技術の高度化が進むなかで、わが国はサブプライムローン問題に代表される多様で複雑なリスクに直面しています。こうした現状を踏まえてわが国の金融を巡る課題を取り上げ、それに対する具体的な処方箋を提案していただきます。四回目を迎える日銀グランプリ。今

「第四回 日銀グランプリ」
「キャンペーンからの提言」
論文募集中！

年も斬新で独創的なアイデアが全国各地から続々と寄せられることを期待しています。学生の皆さん、奮ってご応募ください！

小論文の応募の締め切りは二〇〇八年九月二十六日(金)です。決勝は十二月に実施する予定です。詳しくは日本銀行HPをご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/type/release/adoh/grand0804a.htm>

お問い合わせ先

日本銀行情報サービス局総務企画担当
☎〇三—三三七七—二四〇五

「日銀春休み親子見学会」
開催および「日銀夏休み親子見学会」のご案内

▼日本銀行本店では、四月二日(水)、三日(木)の二日間に行ったり、「春休み親子見学会」を開催しました。

今回の見学会には、合計三二組七四名の皆さまにご参加いただき、本店内の見学や、親子クイズ大会、一億円の重さ体験、お札の数え方などの体験学習に加え、日頃日本銀行について疑問に思っていることを事前募集し、それにお答えする時間、「楽しく学ぼう！にちぎん博士」を設けました。「日銀は何をしているところ？」などの素朴な疑問から、こちらがはっとするような



ずらりと並ぶ歴代総裁の肖像画を見学

な鋭い質問まで、参加された皆さまに、日銀やお金について楽しみながら学んでいただけたようです。

毎回ご好評を頂いておりますこの親子見学会の次の開催は、夏休み期間中を予定しております。「日銀夏休み親子見学会」では、今回の内容に加え、お子さまの「夏休み自由研究」にも役立つよう、見学会で学んだことを形にすることでより理解を深めていただくために「にちぎんレポート」作成時間を設けるなどの企画も予定しています。

参加は無料です。お申込み方法も含め、詳しくは日本銀行HPでご案内しております。皆さま方のお越しを心よりお待ちしております。



1億円の重さを体験

【開催日時】

八月 五日 (火)

八月十三日 (水)

八月十九日 (火)

いずれも一三時から

所要時間は三時間程度

【会場】

日本銀行本店

(東京都中央区日本橋本石町)

【募集対象等】

小学校四～六年生のお子さまとその

保護者(祖父母も含む)

各回定員四〇名

【お申し込み方法】

はがきに参加希望日、参加される方の氏名・続柄・学年、ご住所、電話番号をご記入のうえ、次の宛先にご送付

ください。

〒一〇三―八六六〇

中央区日本橋本石町二―一―

日本銀行情報サービス局見学受付

「日銀夏休み親子見学会申込」

【応募締め切り】

七月二十二日 (火) 必着

*抽選のうえ、結果を書面でご連絡いたします。

お問い合わせ先

日本銀行情報サービス局見学受付

☎〇三―三三七七―二八一五

日本銀行旧小樽支店

金融資料館

来館者五〇万人突破！

▼二〇〇三年五月十四日にオープンした日本銀行旧小樽支店金融資料館は、今年で五周年を迎えました。〃北のウオール街〃と呼ばれた小樽の面影をそのままに残している旧小樽支店の建物は、日本銀行本店本館や東京駅を設計した辰野金吾博士と、その弟子である長野宇平治らによる歴史的建物です。〃小樽市指定有形文化財〃であるこの建物を利用した金融資料館は、小樽の歴史に加え、日本銀行の歩みや中央銀行の業務や役割などを紹介している広報施設です。重厚な建物の外観や凝った内装をご鑑賞いただき、往時の営



業場のカウンターや実際に使用していた金庫などもご覧いただけます。また、〃北のウオール街〃と呼ばれた一九二〇～四〇年代の金融街の模型の展示をご覧いただくことで、現在の小樽の街並みが当時の面影を色濃く残していることを改めて感じいただけるかと思ひます。

観光シーズンには、一日約五〇〇人が訪れる小樽の新たな観光名所ともなっており、去る五月十三日には、開館以来五〇万人目の来館者をお迎えすることができました。福岡県からご夫婦でお越しの三浦誠二さんは、五年前に小樽に来た時は時間の都合で資料館に来られなかった。やっと来られた資

編集後記

■本誌の編集・発行人に就任し1年になりました。毎号、良い紙面を作るべく最善の努力を重ねています。ところで、北京オリンピックまであとわずか。水着をめぐって大騒ぎをしているのも、勝負がわずか百分の1秒の差で決することを考えればもっともなことでしょう。また、イチローのバットなどの道具へのこだわりにも表れているように、競技においてスポーツ用具は決定的な役割を演じます。そして、メダルがたいに期待されるマラソンのシューズをほぼ一手に引き受けて作っている職人・三村さんにとっても、今年は4年に1度の大勝負の年です。体格面でのハンデを余儀なくされている日本人としては、「モノづくり」日本の神髄とも言えるべき職人芸を駆使したシューズを履いて、ぜひとも好成績を挙げてもらいたいと切に願っています。(恵谷)

■豊岡の空を優美に舞うコウノトリの姿は、なにか吉事を運んでくれるようです。掛け軸などによく描かれる「松に鶴」は、実はコウノトリ(姿は似ていますが鶴は木に止まることはできないそうです)。昔から日本人にとってコウノトリがいかに近い存在だったのかがわかります。巣をかける松が伐採され、農薬によって田んぼから餌となる生き物がなくなり、一度は絶滅しかけたコウノトリが、自然の中で人間と当たり前に共生できるその日まで続く長い道のり。雨のそば降る中、人工巣塔で2羽のヒナを守る親鳥の姿は、松島さんをはじめ豊岡の方々の半世紀近くにも及ぶ根気強い努力の結晶のようで、美しく尊いものに感じました。(AU)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2008年 夏号
編集・発行人 恵谷英雄
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社廣済堂
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

料館で五〇万人目となるなんて、とてもラッキー」と喜んでおられました。今後もご来館いただいた皆様に親しんでいただけるよう心がけていきたいと考えております。多くの方々のご来館をお待ちしております。



特別展 「北海道洞爺湖サミット 参加国のお金」開催中!

▼日本銀行旧小樽支店金融資料館および日本銀行金融研究所貨幣博物館では二〇〇八年七月に開催される北海道洞爺湖サミットに因み、参加国の現行流通貨幣を一堂に集めた特別展を開催しております。

今回の特別展は、日本銀行旧小樽支



北海道洞爺湖サミット
ロゴマーク

店金融資料館開館五周年を記念した催しとなっております。

【旧小樽支店金融資料館】

・開催期間

二〇〇八年七月十三日(日)まで

・休館日は、月曜日

・開館時間

九時三十分～十七時

(入館は十六時三十分まで)

・場所

北海道小樽市色内一―一六
<http://www3.boj.or.jp/otaru-m/>

【金融研究所貨幣博物館】

・開催期間

二〇〇八年七月二十七日(日)まで

・休館日は、月曜日

・開館時間

九時三十分～十六時三十分

(入館は十六時まで)

・場所

東京都中央区日本橋本石町一―三一
<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>

